| 科目ナンバリング | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名<br><英訳> | ドイツ語IIA（会話） D2201<br>Spoken German II A | | | 担当者所属<br>職名・氏名 | 人間・環境学研究科 教授 田邊 玲子<br>人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter | | | |
| 群 | 外国語科目群 | 分野(分類) | | | | 使用言語 | 日本語及びドイツ語 | |
| 旧群 | C群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | 演習（外国語）（対面授業科目） | |
| 開講年度・開講期 | 2025・前期 | 曜時限 | 水2 | 配当学年 | ２回生以上 | 対象学生 | 全学向 | |

**[授業の概要・目的]**

ドイツ語ネイティヴ・スピーカーと日本人教員との共同授業である。

テキストは、Schaller, Andrea: Das Mittelalter. Die Welt der Kaiser, Edelleute und Bauern.（『中世。皇帝、貴族、農民の世界』） (Was ist was?; Bd. 118) Nürnberg 2013 からの抜粋を使用する。
これは中世のヨーロッパを紹介するティーンエージャー向きの入門書であり、中世の生活が、数多くの挿絵を用いて比較的簡易なドイツ語で具体的に描き出されている。
中世といえば、騎士物語が有名であるが、文学の世界ではなく、中世を生きた人々　ー　皇帝、騎士、修道僧、職人、商人、農民など　ー　のそれぞれの生活を、食、住、衛生状態、社会国政など、さまざまな側面から知ることができる。
　初級で学んだドイツ語の基礎を生かしながら、より複雑なテキストを読んで理解し、さらにドイツ語を聞き、話し、簡単な文章を書けるようにすることを目的とする。

**[到達目標]**

テキストの読解力をつけるとともに、ドイツ語で内容について話し合いながら、ドイツ語の表現の仕方を練習することで、実践的なドイツ語運用能力を身につけることを目標とする。

**[授業計画と内容]**

テキストの逐語訳は行わないが、毎回決められた範囲を予習してきたうえで、授業時にドイツ語でテキストについて話し合う。基本的にドイツ語和訳はせずに、ドイツ語での理解をめざすが、ポイントとなる箇所については、訳してもらうこともある。

第１回　授業は基本的にドイツ語で行うため、最初の時間に、ドイツ語での質問の仕方等を学ぶ。
第２回～第１４回
テキストについて話し合う。

ドイツ語での質問や説明は、みなが理解できるように、ゆっくり、繰り返して行うので、最初はとまどうかもしれないが、回を重ねれば、ドイツ語に慣れることができる。
必要に応じて、日本人教員が日本語で説明することもある。
最初はテキストゆっくり丁寧に読むが、授業のやり方やテキストに慣れるにしたがって、１回に扱う量を増やしてゆきたい。

このテキストは、中世のさまざまな面を楽しみながら、ドイツ語を読み、聞き、話し、書く、総合的な力をつけてゆく。

第１５回　期末試験
フィードバックの方法は、別途連絡します。

ドイツ語IIA（会話） D2201(2)へ続く↓↓↓

ドイツ語IIA（会話） D2201(2)

[履修要件]

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

[成績評価の方法・観点]

授業参加度、授業中に確認できた達成度（５０％）、および学期末の筆記試験（５０％）に基づいて成績評価を行う。

[教科書]

プリント配布

[授業外学修（予習・復習）等]

予習の範囲はその都度指定するので、必ず下調べをしておくこと。わからない箇所は、授業中に質問を受けつけ、説明する。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]